

教育法としてのライティング学

准教授 渡邊 淳子
Jyunko Watanabe

現在の研究テーマと内容

大学における日本語アカデミック・ライティングやプレゼンテーション指導を通じ、思考を深化させる方策、さらにはそれを生かした指導法の開発・実践に取り組んでいます。例えば、ライティング指導の場合、日本語表現や論理構成に目が行きがちですが、それ以前に、その内容の深さが問われます。特に研究者にとっては既知の情報（知識）を再構成し新たな情報として発信する営み、つまり思考を深化させることがより重要になってきます。思考を深化させる手だてとして、最近、研究テーマとしているのが「対話」です。古代ギリシャのプラトンからグライス, P. といった現代哲学者（言語哲学）の言説を中心に、効果的指導につながる対話の構造を探っています。その過程においては、脳科学、認知心理学、精神医学、社会学といった分野にも足を踏み、試行錯誤を続けているところです。

これまでの研究成果と今後の展開

【主な論文】

渡邊淳子 (2019) 演劇的手法を取り入れた協同学習の効果, 熊本保健科学大学研究誌, (16), 59-65.

渡邊淳子 (2018) ライティング指導のためのルーブリック評価開発－均質なパフォーマンス評価の試み, 熊本保健科学大学研究誌, (15), 101-107.

渡邊淳子 (2017) 文章作成指導におけるコラボラティブ・ライティングの効果, 熊本保健科学大学研究誌, (14), 121-128.

渡邊淳子 (2013) 学部生指導員の活用によるグループ指導の試み－平成24年度ライティング指導室実践報告, 大学教育年報, 熊本大学大学教育機能開発総合研究センター, (16), 30-35.

渡邊淳子 (2012) ライティング指導とフォローアップの試み, 大学教育年報, 熊本大学大学教育機能開発総合研究センター, (15), 58-63.

Lu, X., Watanabe, J., Lui, Q., Uji, M., Shono, M., and Kitamura, T. (2011) Internet and mobile phone text-messaging dependency: Factor structure and correlation with dysphoric mood among Japanese adults. *Computers in Human Behavior*, 27, 1702-1709.

渡邊淳子 (2012) 嗜癖に見られる人間の不合理性の研究-欲望の連鎖とパーソナリティの成熟, 熊本大学社会文化科学研究科 (博士論文).

これまでの研究成果と今後の展開 (つづき)

【主な著書】

渡邊淳子 (2015) 大学生のための論文・レポートの論理的な書き方, 研究社.

渡邊淳子 (2014) レポート作成の基本－アカデミック・ライティングへの誘い, 放送大学教育振興会.

渡邊淳子 (2011) レポート作成の基本, 熊本大学大学教育機能開発総合研究センター.

Watanabe, J., Lu, X., Liu, Q., Uji, M., Shono, M., Chen, Z., and Kitamura, T.(2010) The effects of perceived childhood rearing on substance and behaviour addiction among Japanese university students: Mediation through personality traits. In (eds.) C.L.Goossens, Family Life: Roles, Bonds and Impact, 119-137, Hauppauge: Nova Science Publishers.

【学会発表】

渡邊淳子, 「嗜癮に見る不合理性の源泉」, 西日本哲学会第59回大会, 2008年12月6日, 沖縄

渡邊淳子, 「TCI を用いた嗜癮傾向へのパーソナリティの関与についての研究」, 第27回日本精神科診断学会, 2007年10月13日, 徳島

大学院を目指すみなさんへメッセージ

本学には2018年度に「アカデミックスキルラボ」が開設され、分野を問わずライティングやプレゼンテーションを中心に対話的な指導を行っています。指導がめざすのは、書く力、話す力だけでなく、その大本となる「自ら考える力」の涵養です。これは、研究者であれ社会人であれ、最も求められる能力であるといえるでしょう。主体的に学びに向かうためにも、ぜひラボをお訪ね下さい。